

医学英語 I

科目責任者 矢澤 卓也
 学年・学期 1 学年・1 学期

I. 前 文

これからの医療に携わる医学部生には、①臨床や研究に必要な最新知識を得るための文献の読解力、②症例報告や研究成果発表のための論文を執筆する能力、③国際学会等で発表・討論できる力、④外国人患者の診療や海外での医療活動に必要なコミュニケーション力や診療録を記載する力、などの英語力が必要となる。また、感染症のパンデミック等の緊急時には英語で発信される最新情報を膨大な情報群から素早く正確に取捨選択することが必要となり、この様な力は①の読解力無しに発揮することはできない。

医学英語Iではこれらの力を養う上での基盤となる医学用語（medical terminology）を学び、用語を正しく理解し、実際に使用できるようになることを目標とする。

II. 担当教員

| | | |
|----|--------------|---------------|
| 教授 | 矢澤 卓也 | 病理学 |
| 教授 | 阿久津 博義 | 脳神経外科学 |
| 教授 | 池田 啓 | 内科学（リウマチ・膠原病） |
| 教授 | 徳田 信子, 他担当教員 | 解剖学 |
| 教授 | 小西 昭充, 他担当教員 | 生化学 |
| 教授 | 神作 憲司, 他担当教員 | 生理学 |
| 教授 | 小林 久人, 他担当教員 | ゲノム医科学 |

III. 一般学習目標

基礎医学で用いられる医学用語（medical terminology）を理解し、英語の医学文献を読解できる能力を養成する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 英語の医学用語の意味を正確に理解し、記載できる。
- 2) 英語の医学文献の概要を説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
 6: その他 空欄: 該当なし)

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担当者 | アクティブ ラーニング |
|----|----|----|----|----|-------------------|-----------------|----------------|
| 1 | 5 | 25 | 月 | 3 | 医学英語 I オリエンテーション1 | 矢澤 卓也 | 1 |
| 2 | 6 | 1 | 月 | 3 | 医学英語 I オリエンテーション2 | 池田 啓 | 1 |
| 3 | | 8 | 月 | 3 | 医学英語 I オリエンテーション3 | 阿久津 博義 | 1 |
| 4 | 10 | 5 | 月 | 2 | 「組織学総論」で扱う医学用語 | 徳田 信子 他 担当教員 | 1 |
| 5 | | 5 | 月 | 3 | 「解剖学概論」で扱う医学用語 | 徳田 信子 他 担当教員 | 1 |
| 6 | | 5 | 月 | 4 | 「骨学・筋学」で扱う医学用語 | 徳田 信子 他 担当教員 | 1 |

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担当者 | アクティブ ラーニング |
|----|----|----|----|----|----------------------|----------------------|----------------|
| 7 | 10 | 5 | 月 | 5 | 「生化学I」で扱う医学用語 | 小 西 昭 充 他 担 当 教 員 | 1 |
| 8 | | 6 | 火 | 2 | 「人体の発生学」で扱う医学用語 | 徳 田 信 子 他 担 当 教 員 | 1 |
| 9 | | 16 | 金 | 5 | 「生理学総論と生体の情報」で扱う医学用語 | 神 作 憲 司 他 担 当 教 員 | 1 |
| 10 | | 29 | 木 | 2 | 「ゲノム医科学」で扱う医学用語 | 小 林 久 人 他 担 当 教 員 | 1 |
| 11 | 11 | 30 | 月 | 1 | 「生化学II」で扱う医学用語 | 小 西 昭 充 他 担 当 教 員 | 1 |

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

試験成績（各領域の英語問題の合計）（90%），出欠（10%）で評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) 基本の101語の語源から学ぶ医学英語 第2版。津波古澄子，マリオン ゴボスキー著，日本看護協会出版会。
- 2) 図解剖学辞典 第3版。山田英智 監訳，医学書院。
- 3) 各領域の教科書，参考図書。

VIII. 質問への対応方法

講義時間中に各担当教員に直接質問するか，各基礎系科目の科目責任者にアポイントをとってから質問に来ること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | |
|--|---|
| 医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる | ○ |
| 能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる | ○ |
| 地域医療の理解 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる | |
| 国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる | ◎ |
| リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる | ○ |

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験に出題される medical term はいずれも重要な医学用語であり，医師として一生使い続けることになるので，知識をしっかりと定着させること。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（30分）：講義の分野の英語医学用語に目を通しておく。

事後学習（30分）：講義の分野の英語論文を検索し、興味があるものを通読することにより、該当分野の英文に慣れ親しみ、用語を定着させる。

XII. コアカリ記号・番号

PS-01, RE-02-02